

兵庫県立人と自然の博物館 × 市議会

三田市議会議長と広報委員会がフラワータウンにある兵庫県立人と自然の博物館にお伺いし、博物館で行われている取り組みや、研究についてなどのお話を聞きました。

福田議長：兵庫県立人と自然の博物館（以下、人博と表記する）は、どのような博物館でしょうか。

中瀬館長：当館は平成4年に設立された自然史系の博物館で、日本で唯一ニュータウンに設立されました。また、職員の一部は兵庫県立大学の教員も兼務しておりまして、通常の資料収集や展示、普及教育だけでなく、調査研究、ジーンバンク、シンクタンク、学習交流などの新たな機能を付け加えた博物館です。

福田議長：人博が整備や管理運営に深く関わっている有馬富士公園は、市内外から多くの来場者がありますが、どのような取り組みを行っているのですか。

中瀬館長：有馬富士公園は当初、設置する前の計画の段階で、市民の方々が主体的に参加し、運営できる公園を目指そうと提案し、作っていきましました。市民主体の公園の形は日本初の試みで、国もモデルとしています。遊びの王国を設置するにあたっては、後にユニバーサル・スタジ

オ・ジャパンのユニバーサル・ワンダーランドを設計されたアメリカ人のスーザン・ゴルツマン氏をお呼びし、三田市子どもたちと一緒にワークショップを行っていただきました。エリアには、その成果が反映されています。

赤澤部長：現在、有馬富士公園では、生活で利用しなくなった里山を楽しみながら回復させる取り組みを行っています。炭を作る木を根元から切ると、そこにまた木が生え、10年で炭が作れるようになります。かつては10年ごとに場所を変えながら、繰り返す生活をしていましたが、これにチャレンジしています。

中瀬館長：有馬富士公園での取り組みではありませんが、恐竜化石の調査を行っている池田研究員から化石のことを、植物の研究を行っている石田部長から里山などについて話してもらえますか。

池田主任研究員：私は丹波市で恐竜化石の調査を行っていますが、それ以前には当館周辺で哺乳類の化石が発見されていました。住宅の造成の



あかさわ ひろき 赤澤 宏樹 研究部長

いしだ ひろあき 石田 弘明 研究部長

なか せ いしお 中瀬 勲 館長

いけだ ただひろ 池田 忠広 主任研究員

「地域は宝箱！新しい発見！わくわくを一緒に！」

進化する博物館 地域再生を共に

際に見つかり、既に調査は終了していますが、今後他の地域や地層を調査できるようになれば新たな化石が発見される可能性もあります。

石田部長：私は里山や植物の研究をしていますが、実は三田市にすごい植物があります。絶滅危惧種のBランクに指定されている「カザグルマ」という植物です。これは世界各地で栽培されているクレマチスの母種です。19世紀にヨーロッパから来日した人がカザグルマを自国に持ち帰り、改良してクレマチスを作り、それが世界に広がりました。十数年前から調査していますが、三田市は日本一のカザグルマ群生地だと思います。

福田議長：さまざまな研究や取り組みをされていますね。博物館の研究成果が未来の子どもたちに与える影響は大きなものだと思います。

中瀬館長：はい。設立当初は難しい展示ばかりでしたが、現在では、乳幼児専門のチームを作り研究員が博物館から外に出て行き、皆さんと一緒に活動を行うなど、子どものための博物館にシフトしています。

福田議長：子ども向けのプログラムを多数行われておられますが、現在の来館者数は。

中瀬館長：本館の利用者は年間約16万人で、館外も含め博物館が提供したサービスを受けられた方は年間約95万人となり増加しています。これは、ターゲットを子どもにシフトした取り組みの成果だと思います。

福田議長：素晴らしいですね。では今後、市議会や市政に期待することは何でしょうか。

中瀬館長：当館は地域の活性化、ニュータウンの再生に力を入れていきたいと考えております。そのためには、議員の皆様や市職員の方々ととの交流を行っていただけるとお互いにメリットがあると思います。例えば、当館は大学院でもありますので、市職員の方が働きながら学ぶことも可能です。キャリアアップに繋げて地域活性化に生かしていただくと良いですね。

福田議長：私たちがさまざまな情報をいただき、市政に生かしていくよう議会から提言していきたいです。



***ジーンバンク**：生物多様性の保全のために、絶滅の危機に瀕している野生植物を保護・増殖したり、その種子・胞子を「生きた状態」で保存したりする取り組みのこと。

***シンクタンク**：各分野の専門家を広く集めた高度な研究組織であり、環境問題や社会問題、政策などについて調査・分析を行い、問題解決に向けた方策や将来予測などの提言をする。

